

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

sk2024099
sk2024096
s2024033

③ 施設名等

名称：	幸保愛児園
施設長氏名：	平野 雅己
定員：	42名、地域小規模児童養護施設Kobo Cottage6名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	https://koboen.jp
【施設の概要】	
開設年月日	1953/5/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人幸保園
職員数 常勤職員：	33名
職員数 非常勤職員：	6名
有資格職員の名称（ア）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	10名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数：	15名
有資格職員の名称（ウ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	保健師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	調理員
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	個室50室、キッチン、洗面所
施設設備の概要（イ）設備等：	面接室、心理室、親子支援室、厨房、心理療法室、自立訓練室
施設設備の概要（ウ）：	地域交流室
施設設備の概要（エ）：	

④ 理念・基本方針

<p><基本理念></p> <p>「子どもを守り、愛し、共に生きる」を念頭に置き、子どもの成長を見守りながら継続的な支援と養育を行うことを通して、子どもの最善の利益を目指します。</p> <p><基本方針></p> <p>① みんなの権利を大切にしたい、安心安全な生活をつくりたい。</p> <p>② みんなの人間性や社会性が育ちあう生活をおくりたい。</p> <p>③ ひとりひとりへの支援を続け、それぞれの社会的自立を支えます。</p> <p>④ 子どもたちの希望や不安を大人も一緒に考えます。</p> <p>⑤ 地域の子どもたちのために、児童養護施設の機能を生かした家族支援・子育て支援に協力します。</p>

⑤ 施設の特徴的な取組

<p>〇職員が健康で継続して働くことが大事と捉え、働きやすい職場環境作りに努めている。職員の離職防止の観点からも、各フロア7人の職員配置とし、週1回の宿直勤務となるよう、職員配置数を厚くしている。また園内に、施設管理委員会、子どもの権利擁護委員会、研修委員会、SNS委員会の4つの委員会を設け、相談役としてチーフ1人を置く他は、フロアの職員が委員会のいずれかに参加して活動し、職員中心の委員会としている。こどもたちも職員も明るく、職員の採用にあたっては現場実習に入ってもらい、園全体の「明るさ」を感じてもらっている。</p> <p>〇園の歴史は古く、地域との関係は良好で、園の夏祭りへの民生委員児童委員の方の協力や、お神輿が園を訪れてきている。おやつ購入は近隣のスーパーを多く利用し、積極的に近隣の方に挨拶するよう、全職員が心がけている。地域で開催される行事やスポーツには、こどもたちが積極的に参加し、職員も付き添っている。地域には高齢世帯も多く、ゴミ捨て場が遠いことから、5年位前から園内にゴミ捨て場を設け、地域の方に利用してもらっている。また、2年前より、敷地内に屋外遊具を設置し、地域の親子やこどもたち、学校の友だちが多く利用している。</p>

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2025/6/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2026/2/12
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和4年度（和暦）

⑦総評

○昭和28年設立の歴史のある園で、「子どもを守り、愛し、共に生きる」ことを念頭に置き、子どもたちに寄り添い、継続的な養育・支援を行いながら、子どもの最善の利益を目指している。子どもたちは本館と新館の3つのフロアに分かれて生活を送り、それぞれのフロアは2つのユニットで構成されている。また、近くに地域小規模児童養護施設「Kobo Cottage」がある。

○それぞれのユニットは6人定員で、子どもたちに家庭的な養育ができるようにしている。平成27～28年に居住棟を改築し、年齢にかかわらず個室を整備している。建物は明るく、フロアは広く清潔に整えている。子どもたちの部屋には、キャラクターのぬいぐるみや写真など、自分の好きな物を置き、それぞれ居心地の良い空間を作っている。部屋の掃除や整理整頓は、基本的には子どもたちが自分で行うようにしている。

○調理室で調理した物を各ユニットに配膳し、ユニットごとに、家庭的な雰囲気の中で食事をしている。部活動やアルバイトで遅くなる場合は、職員がユニットのキッチンで温め直し、適温で食べられるよう配慮している。月1回、「ユニット調理の日」を設け、子どもたちが買物から食事作りを体験できる機会を作っている。誕生日や開設記念日、七夕、クリスマス、正月のおせちなどの行事食の他、リクエストの特別メニューを提供するなど、楽しく食事ができるよう工夫している。

○日頃より、子どもたちの意向を最大限尊重しながら支援を行っている。毎年、ボランティアの団体が、バーベキューやゲーム大会、水鉄砲大会など、楽しい企画を提供してくれている。水族館やキャンプの招待行事もある。子どもたちは17時にはフロアに戻り、各自の部屋で宿題に取り組んでいる。元教員による学習ボランティアが週2回来園し、希望する子どもと1対1で学習する時間もある。スイミングやサッカー、ダンス、ボーイスカウト、公文などの習い事に通っている子どももいる。

○子どもを「正しく導く」のではなく、「寄り添う」ことを優先して支援にあたっている。日常生活の中で、子どもたちが「こうしてみよう」と考えられるようにし、うまくいかなければ、他の方法が考えられるよう支援している。子どもが自分で考え、生活ができるよう配慮して、関わりを持つようにしている。

○子どもたちにはいつでも、どの職員にでも、相談ができることを伝えている。また、園内の各フロアに意見箱を設置している。意見箱は苦情解決担当職員のみが開けることができ、週1回、各フロアをまわり回収している。幼児、小学生、中高生の世代別に「子ども会」を開き、子どもたちの声を聞く機会を作っている。また、第三者委員や県の意見表明等支援事業の担当者が訪れる機会もあり、子どもたちの自由度は高く、職員と信頼関係を築きながら暮らしている様子がうかがえるとの評価があり、職員の励みになっている。

○子ども一人ひとりに担当職員を配置している。担当職員は、子どもと信頼関係が築けるよう支援し、授業参観や運動会、三者面談に必ず参加している。児童相談所への付き添いなども、勤務体制を変更し、担当職員が対応できるよう配慮している。子どもと担当職員との関係が悪くなった時も、幹部職員が介入して、関係性を修復している。

○進路については、学校での進路指導による情報提供を受け、複数の選択肢の中から、最終的には自分で決めることができるよう支援している。学校や児童相談所と情報交換を行い、連携を取りながら、本人が主体的に決められるよう促している。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

この度は当施設の福祉サービス第三者評価を実施していただき、ありがとうございました。
 様々な関係機関との連携のもと、子ども達の反応に心を揺さぶられながらも子ども達に寄り添い、日々支援する中、第三者評価を受審する機会を得て、あらためて支援を振り返ることができました。
 評価していただいた内容を吟味し、子ども達の最善の利益のために、ひとつひとつ丁寧にかかわっていきたいと思います。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者評価結果
<p>① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

【コメント】

基本理念や基本方針はホームページに掲載する他、リーフレットや園の概要にも載せ、見学者や実習生、保護者に手渡し、周知に努めている。現行の理念や基本方針は現場の職員でまとめたもので、4月の職員会議では、会議次第に記載し、職員で読み合わせを行っている。月1回開催する職員会議は、法人の理事長を含め、全職員が参加している。また、新規採用職員研修においても、基本理念や基本方針の周知に努めている。毎年度検討する事業計画は基本理念や基本方針を意識して立案し、事業報告の作成においても意識して振り返りを行っている。基本理念や基本方針は職員のものとして捉え、こどもたちには積極的に示していない。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> こどもの数・こども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とするこどもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とするこどもの推移、利用率等の分析を行っている。	b ○ ○ ○
【コメント】		
毎月開催される神奈川県児童福祉施設協議会の施設長会に、園長が毎回出席して、福祉事業全体の動向や、県・政令指定都市の動向などの情報の把握に努めている。町の要保護児童等地域対策協議会の代表者会議にも園長が出席し、地域の児童虐待の状況などを把握している。また、地域の児童養護施設の設置状況を鑑み、町と近隣の市との間で、養育支援短期入所事業（ショートステイ事業）を請け負う契約を結んでいる。ショートステイ事業には、3年ほど前から取り組んでいる、ショートステイ事業に関わる中で、地域の福祉計画策定の動向などの情報を把握している。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 <input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	b ○ ○ ○
【コメント】		
職員が健康で継続して働くことが大事と捉え、働きやすい職場環境作りに努めている。職員の離職防止の観点からも、各フロア7人の職員配置とし、週1回の宿直勤務となるよう、職員配置数を厚くしている。そのため、予算に占める人件費の割合が高く、法人の経営課題のひとつになっており、理事会や評議員会でも話題に上がっている。職員には現状を報告し、無駄遣いの防止や購入品の吟味、設備・備品の丁寧な使用を呼びかけている。それらの働きかけにより、光熱水費を押さえるなど、一定の効果も見られている。		

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	b ○ ○
【コメント】		

児童福祉法改正に合わせた課題や、社会的養育推進計画に向けた課題、働きやすい職場作りに関わる課題を意識し、法人の中・長期的課題をまとめている。中・長期的計画は個別の計画書としてはまとめず、事業計画書に長期的運営方針として掲げ、具体的なアクションにつなげている。今年度の事業計画書には、子どもの権利擁護、時代の要請に応じられる社会福祉法人、働きやすい職場作りの3つの柱を掲げ、長期的課題については、毎年12月～2月にかけて見直しを行い、理事会、評議員会に報告している。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

法人の方針として、長期的運営方針を定め、それに基づいて単年度の事業計画を策定している。長期的運営方針に基づき、各フロアがそれぞれのフロアの取組みとして事業計画を作成し、全体の事業計画につなげている。あわせて、年度初めに、フロア職員一人ひとりが、「この計画について、自分自身はこういう取組みをする」など計画を立てている。職員個々の取組み、目標は、上半期と下半期に実施する園長との面接の場で、進捗状況の確認と振り返りを行い、次の年度の目標につなげている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

事業計画は、前年度の取組みをもとに、フロア会議で意見を出し合い、それぞれのフロアの事業計画案をまとめている。それをチーフ以上が出席する運営会議で確認し、最終案を完成させ、理事会に提案している。完成した事業計画は、年度初めの職員会議の場で、職員に周知を図っている。全職員が計画の立案に参加し、実施、評価、見直しを行っている。事業計画は、11月に進捗状況を運営会議でまとめ、中間報告として理事会や評議員会に報告している。理事会、評議員会は年3回開催し、中間、年間の計画の状況を報告している。

②	7 事業計画は、こどもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、こどもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容をこども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、こどもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、こどもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【コメント】

事業計画そのものは、こどもや保護者には、説明、周知は行っていない。ただし、各フロアの事業計画の取組みには、連絡の可能な保護者に対しては、積極的な支援を行うことを明記している。年間の行事の内容については、その都度、こどもたちに説明を行っている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
--------------------------------	-------------

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

養育・支援の質の向上を図るため、職員個々の課題を幹部職員がフロアチームと共有し、職員本人にも明確に提示し、課題に取り組んでいる。取り組みの状況は、年2回の園長との面接時に確認している。また、職員一人ひとりの視野を広げられるよう、今年度、フロア間交流研修を実施している。交流研修では、他のフロアの支援を体感する取組みを行い、自身のフロアに持ち帰り、フロアの支援の質の向上につなげている。昨年度、チーム4名、中堅職員3名を他施設に派遣する交流研修を実施し、中堅職員の派遣は今後も継続して実施していきたいと考えている。派遣研修により、運営会議はフロア会議の後に開催するなど、改善につなげている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

評議員会や理事会、苦情解決第三者委員、県の意見表明権保障チームなどから出された評価や、所管の児童相談所や県の子ども家庭課などからの指摘については、書面もしくは口頭で、運営会議や職員会議などの場で共有している。指摘を受けた課題については、必要に応じて改善計画を作成して取り組み、経過を報告している。4年前から職員の研修システムの仕組みを作っているが、課題に合わせ、昨年度からもう一度見直し、基本理念を押しえたシステムの構築をすすめている。また、こどもの意思表示にも取り組んでいる。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

事業計画の策定にあたっては、園長より「施設の経営・管理に関する方針と取組」を示し、幹部会議、運営会議で具体的な計画を立てよう取り組んでいる。また、ホームページ上の「職員募集」欄に、「理事長からのメッセージ」として、20年近く前に起きた公金の私的流用と職員による児童虐待の件を、二度とこのようなことが起きないように掲載し、職員一人ひとりの意識の向上を図っている。園長の役割と責任については、「業務分掌」や有事の際の「事業継続計画」、「安全計画」に定め、年度当初の職員会議で職員に周知している。園長不在時の権限はグループリーダーに委譲しているが、外出時は携帯電話により、いつでも連絡が取れるようにしている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

県子ども家庭課や所管の児童相談所とは、適時、必要な情報のやり取りを行っている。また、県児童福祉施設協議会の施設長会には、園長が毎回出席する他、県児童相談所が主催する人権研修に参加している。福祉新聞などで職員に周知が必要なものは、各フロアに配布して周知に努めている。職員会議では、園長より運転に関する法令研修を行っている。月1回、全職員が参加する職員会議では、園長からの報告の時間を設け、遵守すべき法令などを正しく理解するための取り組みを行っている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

フロアチーム以上が参加する運営会議では、養育・支援の現状について、各チームから報告を受けている。週1回、理事長、園長、グループリーダーで幹部会議を開催し、養育・支援の現状について意見交換を行っている。運営会議では、課題検討を行う体制を維持し、幹部会議では法人研修の内容も検討している。また、年2回以上、職員面接の場を設け、職員の資質向上に努めている。園内に、施設管理委員会、子どもの権利擁護委員会、研修委員会、SNS委員会の4つの委員会を設け、相談役としてチーム1人を置く他は、フロアの職員が委員会のいずれかに参加して活動し、職員中心の委員会としている。招待行事には園長も参加するなど、こどもたちとの距離も近く、こどもたちが園長室に相談に来ることも多い。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

職員が働きやすい環境を作るため、国の基準を超える人員の配置を行っているが、予算に占める人件費の割合が高く、70%を超えている。働きやすい環境作りでは、10年位前より、年休の日数を増やしたり、給与体系などの改善にも取り組んでいる。小規模グループケアの実現のため、施設の建て替えを10年前に行っているが、10年が経過して、外壁の修繕など、大規模修繕の予定立案が急務であることや、電化製品などの買い替え時期も迫っており、職員会議や運営会議の場で、職員に状況を説明し、節約などを働きかけている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

職員の採用は、窓口は園長が担い、面接は園長と理事長で行っている。求人はホームページに掲載する他、ハローワークや無料求人サイトを活用し、県児童福祉施設職員研究会が主催する就職相談会にも積極的に参画している。求人に関しては、ホームページに園の現状をアピールする他、面接後には直接支援職員は現場実習に入ってもらい、園全体の「明るさ」を感じてもらっている。また、求人難の状況を鑑み、人間性優先として、保育士資格などがなくても、応募可としている。そのような取り組みの成果により、現在、職員の欠員はない。また、人材育成をテーマに、各フロアチーフと職員の情報交換を行い、年2回以上の園長との面接を実施している。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

職員より、園が期待する職員像が明確でないという指摘があり、今年度、運営会議の場で意見交換を行い、年度初めに「施設が求める職員像」を職員会議で明示している。「施設が求める職員像」は、①当たり前のことが当たり前になる職員、②心身の健康を自己管理出来る職員、③子どもの視点で物事が考えられる職員、④客観性のある職員の4つで、具体的な姿を示している。職員の採用や配置、異動、昇進については、「就業規則」などに定め、「就業規則」については、これも年度初めの職員会議で、読み合わせを行っている。職員の意向や課題などについては、職員面接の場で話題にあげ、改善につなげている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

職員の労務管理は、フロアチーフ、グループリーダー、園長が協力して行い、有給休暇の取得や時間外労働は、園長が届出から確認し、状況を把握している。夏季及び冬季の休みを含め、有給休暇は以前はばらばらに取得していたが、現在は全体がバランス良く取得している。働きやすい職場作りとして、年2回以上の個別面接の機会を設け、職員一人ひとりの感じていること、将来的なことなどを聞き取っている。また、いつでも相談にのれることを伝えている。実際に、園長や理事長に随時、相談に来る職員もいる。人材確保の観点から、昨年度より、SNSを始め、こどもたちの様子を発信している。SNSの運用は、フロア職員を中心にしたSNS委員会が担っている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

今年度初めに、運営会議で意見交換を行い、「施設として期待する職員像」をまとめ、職員会議の場で職員全体に示している。期待する職員像は、当り前のことが当り前に出来る職員など、基本的なことを具体的な姿として示している。また、事業計画の作成時には、職員一人ひとりが目標を達成させるためにどんなことができるか、個別の目標を掲げ、上半期と下半期に、達成度について確認する面接を行っている。面接は園長が担い、園長ときちんと話をする時間を大切にしている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

園が目指す養育・支援を実施するため、今年度「施設として期待する職員像」を具体的に示している。必要な専門職の配置を行っているが、職員の採用にあたっては、こどもに寄り添える職員、こどもの目線で捉えることができる職員を求めていることから、必ずしも専門資格は求めている。専門資格については、資格取得支援制度を設けており、社会福祉士などの資格を取得した際には、費用の一部を施設で負担している。職員の外部派遣研修については、研修内容を職員に案内している。内部研修は、フロア職員を中心にした研修委員会で、内容を企画、実施している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を奨励している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

法人研修として、新規採用職員研修や階層別研修を実施している。研修内容は、幹部会議で検討している。各種団体から案内が届く外部研修については、「研修会のお知らせ」として情報提供し、周知、募集を行っている。職員が年1回は外部研修に参加できるよう配慮している。園内研修については、全職員が出勤する会議日に設定し、職員全員が研修会に参加できるようにしている。また、法人の理事長が元児童相談所長であることから、週1回出勤し、職員と一緒に困難ケースの支援方法を検討するなど、スーパービジョンを提供している。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

里親支援専門相談員を窓口として、大学や短期大学、専門学校での保育実習生の受け入れを行っている。実習に際しては、こどもたちの様子や直接支援職員の動きを学んでもらう他、里親の支援や自立支援専門員の支援など、法人内の専門職スタッフによる講義も取り入れている。また、実習担当教員の訪問を受け入れ、実習の振り返り作業を行っている。今年度は4校より、9名の実習生の受け入れを行う予定である。実習生の受け入れは、職員にとって負担もあるが、後進の育成として捉え、また、受け入れることで職員の成長にもつながるため、今後も継続して行っていく予定である。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	

【コメント】

ホームページに、基本理念や支援の基本方針を掲げる他、WAM-NETに事業計画や事業報告を公開し、運営の透明性を確保する情報公開を行っている。また、福祉サービス第三者評価の結果も、ホームページで公開している。通学する小・中学校の教諭や町の要保護児童等対策地域協議会代表者会議の場や見学者などに対し、リーフレットにより、法人の歴史やこどもたちのことを伝えている。グループリーダーが町内会の班長や学校のPTAの役員を担い、地域に対して、園側から積極的に情報を提供するように取り組んでいる。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

20年近く前に起きた公金の私的流用を常に意識して、公正かつ透明性の高い適正な経営、運営については、慎重に対応している。就業規則や規程類は「要綱要領集」としてひとつのファイルにまとめ、各フロアに配布して、職員に周知している。年度の事業報告、決算報告時には監事監査を実施し、加えて、理事会及び評議員会にて、事業計画、予算、事業報告、決算報告を説明し、助言を受けている。施設の財務については、事務担当から外部の会計事務所にその都度相談して、健全な施設運営に努めている。弁護士や社会保険労務士に相談できる体制も整えている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
<p>① 23 こどもと地域との交流を広げるための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。</p> <p><input type="checkbox"/> こどもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設やこどもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。</p> <p><input type="checkbox"/> こどもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々のこどものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。</p> <p>(児童養護施設)</p> <p><input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>基本方針に、地域のこどもたちへの協力を掲げ、事業計画に地域の関係機関との連携を記載している。地域で開催される行事やスポーツには、こどもたちが積極的に参加し、職員も付き添っている。地域との関係は良好で、園の夏祭りへの民生委員児童委員の方の協力や、お神輿が園を訪れてくれている。おやつ購入は近隣のスーパーを多く利用し、積極的に近隣の方に挨拶するよう、全職員が心がけている。地域には高齢世帯も多く、ゴミ捨て場が遠いことから、5年位前から園内にゴミ捨て場を設け、地域の方に利用してもらっている。また、2年前より、敷地内に屋外遊具を設置し、地域の親子やこどもたち、学校の友だちが多く利用している。</p>	
<p>② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティアに対してこどもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>ボランティアの受け入れを行っている。園の歴史も古く、継続して支援してくれるボランティア団体は多く、水族館やイチゴ狩り、バーベキュー、遠足企画などの招待を受けている。子ども食堂を運営している団体に園内の場所を提供したことがあった。20年くらい前の不祥事や新型コロナウイルスの流行などにより、ボランティア活動は減少していたが、現在、徐々に活動は戻りつつある。新規のボランティア希望には、園の歴史やこどもたちの様子、支援上の注意点を説明する時間を設けている。畑のボランティアなど、今後、徐々に受け入れていきたいと考えている。こどもたちへの学習ボランティアは、元学校の先生7～8名が、5年ほど前から、週2回、活動している。</p>	
(2) 関係機関との連携が確保されている。	
<p>① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々のこどもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、こどものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

【コメント】

児童相談所の職員とは、随時、連携している。こどもたちの通学、通園先とは、新規入所の際には児童相談所の児童福祉司と入所児の説明に伺ったり、こどもに課題があった時は、担任教諭と頻繁にやり取りを繰り返している。また、児童発達支援事業所や放課後デイサービス事業所などは、情報交換を行いながら、こどもたちの支援に当たっている。中学校とは、赴任してきた教諭などを招いて連絡会を開催し、児童養護施設の説明を行っている。また必要に応じて、地域の警察署の協力や、防災訓練時には消防署の協力をお願いしている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○

【コメント】

町の社会福祉協議会が主催する地域の情報交換会には、園長が必ず出席して、地域の困りごとや課題を知る機会とする他、園の様子を広く広報する場として参加している。また、町民大学にも参加し、地域の声を聞くとともに、園の地域交流室の活用を紹介している。児童養護施設の設置状況に鑑み、1町1市とショートステイ事業の契約を結び、必要なこどもを受け入れるなど、園の持つ専門機能を活用して、地域に貢献している。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

児童養護施設の設置状況に鑑み、1町1市とショートステイ事業の契約を結び、必要なこどもを受け入れるなど、園の持つ専門機能を活用して、地域に貢献している。また、町の児童福祉主管課職員の相談にのっている。地域開放要綱を定め、地域交流室などを町の社会福祉協議会や里親の集まりなど、地域の関係団体に積極的に提供している。地域貢献として何ができるかなどの話し合いを行い、業務継続計画に、近隣の方が望めば、別棟の遊戯室を開放する計画を立てている。また、園の敷地内に、近隣の方が使用できるゴミ捨て場を設置している。地域のお祭りなどの行事には積極的に参加するよう心がけている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 こども本位の養育・支援

(1) こどもを尊重する姿勢が明示されている。

①	28 こどもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、こどもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

第三者
評価結果

【コメント】

毎年、年度初めに全職員に対し、理事長から園の理念・基本方針を説明し、全員での読み合わせを行って理解を深めている。また、5月1日の創立記念日には、園の歴史やユニットの名前の由来など、子どもたちを大切に育てていく児童養護施設の義務を再確認する機会を設けている。子どもへの人権の配慮や虐待防止の観点から、全国児童養護施設協議会の「人権チェックリスト」を、年3回全職員を対象に実施し、支援の振り返りを行っている。チェックリストは園長が一覧にして職員に示し、課題や改善点などを明確にしている。各フロアでは注意点などを話し合い、権利擁護などの意識を高めている。

②	29 子どもプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【コメント】

管理規程に、子どもの支援について明示し、プライバシー保護に対する責務などを明記している。ユニット内の居室はすべて個室で、職員が掃除やその他の用事で入室する際には、ノック、声かけし、返事を確認してから入室している。入浴は、各ユニットの大きめのユニットバスを使用し、子どもたち一人ひとりのプライバシーに配慮している。幼児の入浴は、安全確保のため職員が浴室に入り、コミュニケーションを取りながら、洗身などの介助を行っている。担当者と二人での個別外出では、一緒に食事をしたりして、プライバシーを守りつつ愛着関係を築いている。学校の友達が園に遊びに来るときは、ユニット内は使用せず、別棟の遊戯室、または園内の地域交流室などを使用している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

園の概要の資料を用意して、新規に入所する子どもの保護者や見学者、実習生に、基本理念や基本方針を園長やグループリーダーが内容を説明している。また、広くホームページやSNSで情報を発信している。実習生は年間10名前後を受け入れているが、ホームページやSNSを見てきたという実習生が多い。保護者には、できるだけ園に来て生活を見てもらえるよう働きかけ、園の内容を説明している。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

新規入所は、児童相談所からの依頼を受け、こどもの状況を聞いたうえで、園内の空き状況などにより受け入れを決めている。担当予定の職員が児童相談所で実際にこどもの状況を確認した後、会議で検討し、受け入れを決めている。対象のこどもには、「ルールブック」を使用して説明を行い、園での生活に納得したことを確認して、最終的に入所を決定している。こどもの入所日には、担当職員と一緒に、食事用お茶碗類や寝具、日用品などを購入している。保護者にもできるだけ入所時に来てもらうよう働きかけ、説明だけでなく、実際の生活場面を見てもらうようにしている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設としてこどもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、こどもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

引き取りによる家庭へ移行、地域の障害者グループホームへの移行、18歳になったの退所などは、本人、児童相談所の児童福祉司、家族などとの相談の上、安心した生活を送ることができるよう、十分な配慮をしながら進めている。家庭引き取りの場合には、面会や半日外出、一日外出、園内の親子支援室を使用しての宿泊、家庭への一泊、数日の外泊など、段階を踏みながら、こどもや家族の状況を確認して無理のないように進めている。アフターケアについては、マニュアルを整備し、相談や対応の内容は、アフターケア報告書に記録している。主に自立支援担当職員が担当となり、卒園しても金銭を預かってほしいなどの希望者には、預り金規程を設けて対応している。卒園者がこどもを連れて遊びに来たり、困りごとがあると相談をしてくるケースも多く、個々に対応している。

(3) こどもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 こどもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> こどもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもへの個別の相談面接や聴取等が、こどもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、こどもの満足を把握する目的で、こども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、こども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

こども一人に一人の担当職員が付き、定期的な自立支援計画書作成時の面接を行っている。また、日常生活の関わりの中で、愛着関係を築き上げているが、事務や調理の職員も含め、すべての職員がすべてのこどもを支援する体制をとっている。こどもたちには、以前はアンケートを実施していたが、自分で話すことができるよう、良かったことや希望などをどの職員にも言えるよう働きかけ、現在はアンケートは行っていない。第三者委員や県の意見表明事業のスタッフが、それぞれ年2回訪れ、こどもたちの話を聞いている。園外の人にも、きちんと自分の意見が言えるよう働きかけている。世代別に子ども会を開催し、意見聴取に努めている。

(4) こどもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料をこどもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、こどもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○

	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

「社会福祉法人幸保園 苦情解決システム実施要綱」にて、苦情解決体制を整備している。苦情解決責任者は園長、苦情受付担当者は里親支援専門相談員とし、苦情解決事業のポスターを玄関に掲示している。また、各生活ユニットに「意見箱」を置いている。苦情解決事業の担当者が火曜日に「意見箱」を開け、内容を集計して園長に報告している。運営会議で解決策を検討し、改善できること、できないことを説明し、結果を子どもに伝えている。また、事業報告書に内容や相談件数を掲載している。苦情の内容は、子ども同士のトラブルが多いが、全体の件数は少ない。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

毎日の生活の中で、子どもの声に耳を傾け、言葉だけでなく、子どもの表情や態度など、いつもと違うようなことがある場合は声をかけ、体調や心の変化にも十分、配慮しながら関わっている。「子ども会」は、幼児、小学校低学年、小学校高学年、中学生、高校生と5つのグループに分け、幼児はおやつを食べながら、その他のグループは夕食後に開催し、子どもたちの声や意見を聞いている。進学や就職などの相談は、個別に相談室や居室で話を聞いている。園長室はオープンにしてあり、いつでも子どもたちが話ができる体制を整えている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもが相談しやすい環境を整え、フロア職員に限らず、すべての職員が子どもの話を聞いている。内容はフロア職員や担当職員に伝え、運営会議やフロア会議で解決策を検討している。解決策は、各フロアや子どもたちに伝えている。「年末年始は夕方以降はユニットを超えてみんなで遊びたい」との希望には、フロアを超えて地域交流室を使って遊ぶようにしている。また、「あるユニットではタトゥーシールが許可されているが、自分のユニットではなぜいけないのか」との疑問については、それぞれの家庭で考えが違いうように、ユニット間でも違いがあることを子どもに説明している。課題は全職員が把握するようにしている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	

【コメント】

施設管理委員会を設置し、園長を責任者として安全管理マニュアルを整備している。マニュアルには、園内や園庭、学校その他の事故の対応、無断外出への対応、性的問題への対応、薬の管理、救急対応などを記載し、安全に配慮した支援を行っている。ひやりはっとや事故があった場合は、朝の連絡会などで園全体に報告、周知している。また、年2回、施設管理委員会がひやりはっと・事故報告を集計分析して注意喚起し、事故発生防止に努めている。薬の飲み忘れに対しては、解決策として「お薬カレンダー」を個々に作り、ポケットに氏名・日付・朝夕などを明記し、対応した人は「から袋」をポケットに戻し、担当者が飲ませたことを確認し「から袋」を捨てることにしている。精神科薬、てんかん薬などの投薬があるが、飲み忘れなどが改善されている。

②	38 感染症の予防や発生時におけるこどもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

感染症対策マニュアルを整備している。新型コロナウイルスやインフルエンザの好発期には、県の情報チラシを各フロアに掲示し、感染症の発生防止に努めている。感染症対策マニュアルには、0-157や疥癬などの対応策、小児感染症（麻疹、水痘、ヘルペングーナ、耳下腺炎、手足口病など）の対応策も明記している。また、看護師の資格を持った職員に相談しながら対応している。インフルエンザなどが発生してしまった時は、受験生がいる場合は親子支援室で感染しないよう生活をしてもらうこともある。日頃から手洗い、うがいなどを励行している。

③	39 災害時におけるこどもの安全確保のための取組を組織的にしている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策を講じている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体、学校、病院等と連携するなど、体制をもって避難訓練等を実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

防火・防災管理者を置き、「消防計画」や「安全計画」、「業務継続計画」を作成して、災害の発生に備えている。計画には、災害発生時の初動体制や役割分担、出勤体制、こどもの安否確認などを明記している。海に近い立地ではあるが、津波はハザードマップからは外れている。三浦半島の震度5以上の地震が発生した際は、職員間でLINEを確認することを申し合わせている。園内のロフトやキャビネットなどの落下防止対策を行っている。非常食や飲料水など、備蓄品を保管している。停電の際のポータブル自家発電機を4台備えている。

2 養育・支援の質の確保

(1)	養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、こどもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

法人の理念や基本方針に、養育・支援していく上での姿勢を示している。基本理念として、子どもを愛し、守り、共に育ち合うことを目的として、子どもの尊重、権利擁護、プライバシーの保護、個別の成長などの基本的な関わりを示している。また、管理規程や職員行動指針などに明記し、日々の生活の中で実行している。自立支援計画の作成方法は決めているが、文章化はしていないため、今後の課題としている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

各種マニュアルについては、定期的ではないが、課題や必要に応じて、その都度基本に立ち返り見直しを行っている。自立支援計画作成の流れは、担当者が計画の原案を作成し、フロア会議でフロアの職員の意見をもらって修正している。園の幹部の確認を受け、児童相談所児童福祉司との意見交換を経て、自立支援計画書をまとめている。また、半年に1度の見直しを行っている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

自立支援計画の作成にあたっては、担当者が子どもにどのような生活がしたいか、希望を聞いている。フロア会議で他の職員の意見を集約して、園の幹部にも確認して、最終的なまとめを行っている。また、心理療法担当職員など、さまざまな職種の意見を聞き、自立支援計画を作成している。子どもからの意見、家族の思い、他職員の意見などのアセスメントシートは作成していないため、子どものニーズがもっと見えるようなシート作成が今後の課題であると感じている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	<input type="checkbox"/>

	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○
--	---	---

【コメント】

半年ごとに、こどもの様子を確認し、必要に応じて、こどもの意見を聞きながら、フロア会議で自立支援計画の評価・見直しを行っている。その後、児童相談所の児童福祉司を交えて見直しを行い、新たな課題を明確にして、次の自立支援計画につなげている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 こどもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> こどもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

個人の児童記録、児童相談所関係書類、その他（学校関係・親からの書類など）の三点は、事務所の鍵のかかるキャビネットに保管し、持ち出し禁止としている。日々のこどもに関する記録、自立支援計画書、子どもの特記事項などは、すべてパソコンで管理している。園全体に周知したい特記事項などは、全職員がアクセスできる「児童に関する記録」のフォルダを設けるとともに、紙ベースで全フロアに配布して、周知している。幹部職員だけがアクセスできる書類もあり、いずれもパソコンを開けたままにしないなどの管理を行っている。

②	45 こどもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、こどもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、こどもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

「管理規程」や「文書管理規程」、「個人情報保護・管理規程」により、記録類の管理体制を確立している。記録類の管理責任者は園長とし、保管場所の規程、扱いに関する規程、廃棄に関する規程、情報開示に関する規程などを明記している。会議などで、個人情報が出ている資料には通し番号を打ち、終了後はフロアチーフに書類を戻し、グループリーダーがシュレッダーにかけるようにしている。

内容評価基準（24項目）

A-1 こどもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) こどもの権利擁護		第三者 評価結果
	① A1 こどもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	b
	<input type="checkbox"/> こどもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○

<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> こどもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	<input type="radio"/>

【コメント】

こどもの権利擁護に関しては、「管理規程」や「虐待防止マニュアル」に明記し、要綱要領集ファイルに綴り、就業規則とともに、各フロアの職員室に置き、必要な時に内容を確認できるようにしている。また、新任職員研修でも、テーマとして取り上げている。権利擁護については、日頃から職員間で意識し、情報を共有して、権利侵害の防止に努めている。不適切な事例を発見した場合には、時間を置かず、すぐに状況を調査して対応している。必要に応じて、児童相談所にも相談している。また、毎年、11月の虐待防止推進月間に合わせて、「虐待防止研修」をすべての職員が参加して開催している。昨年は「こどもの権利、こどもにとって最もよいこと」をテーマに、各職員が意識することをあげている。法人の設立者がキリスト教の宣教師であったことから、以前は「礼拝」などの時間が設けられていたが、現在は、信教の自由、心の自由を保証して、行っていない。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 こどもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間でこどもの権利に関する学習機会を持っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 年下のこどもや障がいのあるこどもなど、弱い立場にあるこどもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

こどもたちは、自身を守る（守っても良い）視点から、毎年1回「CAP（こどもへの暴力防止のための予防教育プログラム）」の指導を、小学生対象に受けている。「権利ノート」の取り扱いについては、基本的には児童相談所の仕事であると認識している。「権利ノート」はそれぞれ、こどもが持ち、自室にて管理している。生活の中で、こどもたちから権利ノートについて話があれば丁寧に対応し、権利について理解できるよう取り組んでいる。喧嘩などが起こった際には、権利について理解ができるように伝え、成長につながるよう支援に努めている。幼児の新規入所があると、こどもたちは思いやりのこころを持って接している。

(3) 生い立ちを振り返る取組

①	A3 こどもの発達状況に応じ、職員と一緒に生い立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> こどもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、こどもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こども一人ひとりに成長の記録（アルバム等）が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、こどもの生い立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

こどもの生い立ちの整理は、児童相談所と園がこどもの状況を確認する中で、基本的には児童相談所が時期を決め、園は実施に向けて手伝いをする立場を取っている。生い立ちの整理は、一人ひとりで異なり、動揺してしまうこどももいるため、実施のタイミングについて児童相談所に意見を伝えている。また、運営会議や職員会議、フロア会議で状況を報告して、職員間で共有している。こどものアルバムは担当職員が作成し、それぞれのこどもの部屋に置き、いつでも見ることができるようになっている。毎年開催する卒業・卒園を祝う会では、これまでの成長記録の動画を流し、皆でお祝いする時間を作っている。動画のデータは希望するこどもたちに渡している。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	<p>A4 こどもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・こども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。</p> <p><input type="checkbox"/>こどもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、こどもに周知し、こども自らが訴えることができるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料をこども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、こどもが自ら訴えることができるようにしている。</p>	b
		○
		○
		○
		○
		○

【コメント】

こどもに対する職員の行動指針や規程は、就業規則及び管理規程に明示している。また、「虐待防止マニュアル」を整備し、虐待や不適切な関わりがあった場合の「組織的対応」について体制を整えている。該当する事例は話題に上げ、フロアチーフから幹部職員に報告して、必ず事実確認を行っている。内容は運営会議やフロア会議で共有して、支援につなげている。また、記録にも残し、内容を確認できるようにしている。こどもに対しての言葉遣いや呼び方などは、常に職員間で意識して、不適切な事例があれば、その都度、園長が職員会議で伝え、振り返りを行うようにしている。こどもたちは毎年、CAPの研修を受け、児童相談所の「権利ノート」の説明を聞いている。職員も虐待防止研修やCAPの講義を受けている。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	<p>A5 こどものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>こどもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、こどもの不安を軽減できるように配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/>入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>こどもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭復帰や施設変更、里親等委託にあたり、こどもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。</p>	a
		○
		○
		○
		○

【コメント】

入所前のこどもには、可能な限り職員が一時保護所に会いに行ったり、園を見学してもらっている。また、通学先の小学校や中学校でカンファレンスを行い、安心して入所できるよう準備している。児童相談所や学校と丁寧な情報交換を重ね、受け入れ時から継続して、日常的な支援ができるようにしている。茶碗や箸、コップなど、個人用の物を用意し、使えるようにしている。年度の途中の入所など、時期によっては、受験や卒業が近い場合もあり、それまでの関係性を大切にできるよう配慮し、入所前の住居地の学校で卒業できるよう、職員が送迎したりしている。ショートステイを利用するこどもにも、通学先への送迎を援助している。

②	<p>A6 こどもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>こどものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。</p> <p><input type="checkbox"/>退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/>行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。</p>	a
		○
		○
		○
		○
		○

退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもが交流する機会を設けている。

【コメント】

子どもの退所の際には、担当職員やフロアチーフ、自立支援担当職員に、いつでも相談ができることを伝えている。また、民間の社会的養護自立支援拠点事業所との顔合わせをするなど、相談できる場所の紹介もしている。卒園生から連絡があり、担当職員が会いに行くことがあるが、職員がアフターケアで子どもに会いに行く場合には、「時間外勤務」として扱い、職員が関わりやすいよう体制を整えている。卒園生からの「電気を止められて入浴できない」などの相談には、一時的に園で入浴を援助したりしている。卒園生や家族、就労先、警察などから相談を受けた際には、「アフターケア報告書」に記録し、朝の連絡会などで職員に周知している。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起きているのかを理解しようとしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	<input type="radio"/>
【コメント】		
<p>子どもたちにはいつでも、どの職員にでも、相談ができることを伝えている。また、園内の各フロアに意見箱を設置している。意見箱は苦情解決担当職員のみが開けることができ、週1回、各フロアをまわり回収している。意見箱には、Wi-Fiの使用時間についてやサッカーゴールが欲しいなど、様々な内容が上がっている。内容によって担当する職員を決めて対応している。幼児、小学生、中高生の世代別に「子ども会」を開き、子どもたちの声を聞く機会を作っている。また、第三者委員や県の意見表明等支援事業の担当者が訪れる機会もあり、子どもたちの話を聞いている。「利用者アンケート」は実施していないが、第三者委員や県意見表明等支援事業のスタッフからは、子どもたちの自由度は高く、職員と信頼関係を築きながら暮らしている様子がうかがえるとの評価があり、職員の励みになっている。</p>		
②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人が存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>	
【コメント】		
<p>子ども一人ひとりに担当職員を配置している。担当職員は、子どもと信頼関係が築けるよう支援し、授業参観や運動会、三者面談に必ず参加している。児童相談所への付き添いなども、勤務体制を変更し、担当職員が対応できるよう配慮している。子どもと担当職員との関係が悪くなった時も、幹部職員が介入して、関係性を修復している。幼児・小学生には就寝時、部屋で本読みをしたりしている。また、1日の振り返りをするなど、1対1で過ごす時間を作るようにしている。</p>		
③	A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	こどもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	
<input type="checkbox"/>	こどもがやらなければならないことや当然できることについては、こども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
<input type="checkbox"/>	こどもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
<input type="checkbox"/>	つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○

【コメント】

こどもを「正しく導く」のではなく、「寄り添う」ことを優先して支援にあたっている。日常生活の中で、こどもたちが「こうしてみよう」と考えられるようにし、うまくいかなければ、他の方法が考えられるよう支援している。こどもが自分で考え、生活ができるよう配慮して、関わりを持つようにしている。学校の友達が園に遊びに来ることも多く、外の遊具と一緒に遊んだり、小学生以上は室内でゲームをして過ごしている。ゲームの時間については、フロアでルールを決めて守っている。友達の家遊びに行く場合には、事前に職員が相手先の親と連絡を取ったり、逆に友達の親から連絡を受けることがある。こどもたちの希望は、いつでも聞くようにしているが、集団生活の中で実現困難なことは、必ず説明している。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
<input type="checkbox"/>	施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
<input type="checkbox"/>	日常生活の中で、こどもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
<input type="checkbox"/>	幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	
<input type="checkbox"/>	学校や地域にあるこどもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
<input type="checkbox"/>	こどものニーズに応えられない場合、こどもがきちんと納得できる説明がされている。	○
<input type="checkbox"/>	幼稚園等に通わせている。	○
<input type="checkbox"/>	こどもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

園の玄関前の庭には、ブランコや滑り台の付いた大型屋外遊具を設置し、こどもたちが自由に遊べるようにしている。地域のお祭りや花火大会、学校のPTA行事などには、できる限り参加し、こどもたちが多くの経験ができるようにしている。こども同士での外出は時間、範囲を決めているが、中学生以上の花火大会への外出には、帰宅時間を延ばすなど、柔軟に対応している。日頃より、こどもたちの意向を最大限尊重しながら支援を行っている。毎年、ボランティアの団体が、バーベキューやゲーム大会、水鉄砲大会など、楽しい企画を提供してくれている。水族館やキャンプの招待行事もある。寄贈された本も多くある。こどもたちは17時にはフロアに戻り、宿題に取り組んでいる。女子のフロアでは、学校から帰ったらすぐに宿題をやるように決めているところもある。元教員による学習ボランティアが週2回来園し、希望するこどもと1対1で学習する時間もある。スイミングやサッカー、ダンス、ボーイスカウト、公文などの習い事に通っているこどももいる。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
<input type="checkbox"/>	こどもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、こどもがそれらを習得できるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/>	こどもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束と一緒に考え作っていくようにしている。	○
<input type="checkbox"/>	地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
<input type="checkbox"/>	発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/>	発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

子どもたちの意見も参考にしながら、就寝や宿題、門限の時間、ゲームやスマホのルールなどを定めた「幸保愛児園ルールブック」を整え、子どもたちに配布、説明している。子どもたちからの相談や希望は、運営会議やフロア会議で検討している。変更があった際には、その都度子どもに伝えている。8月には、外部から講師を招き、中学生以上の子どもを対象に、SNSについて話をしてもらっている。以前、SNSを通して不特定多数の相手と交流を図った事案があったことから、SNSの怖さを注意喚起する取り組みを行っている。食事のマナーなどは、日常生活の中で、場面に合わせて担当職員が伝えるようにしている。入浴についても、せかさない、無理強いしないなど、子どもたちの状況に合わせて対応している。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですることができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気で、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	○

【コメント】

調理室で調理した物を各ユニットに配膳し、ユニットごとに、家庭的な雰囲気の中で食事をしている。部活動やアルバイトで遅くなる場合は、職員がユニットのキッチンで温め直し、適温で食べられるよう配慮している。また、職員や子どもたちのだれかの姿があるところで食べられるようにしている。苦手な食材がある子どもには、一口だけでも食べるように、様子を見ながら勧めている。生卵や甲殻類にアレルギーがある子どもには、除去食の対応をしている。各フロアでは、毎食ごとに、嗜好や残食状況を検食日誌に記入し、栄養士が献立の作成に反映している。月1回、食育会議を開催し、他のフロアの検食日誌の特記事項を共有するようにしている。また、月1回、「ユニット調理の日」を設け、子どもたちが買物から食事作りを体験できる機会を作っている。誕生日や創立記念日、七夕、クリスマス、正月のおせちなどの行事食の他、リクエストの特別メニューを提供するなど、楽しく食事ができるよう工夫している。学校にお弁当を持って行く子どもには、フロアの職員が作って持たせている。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○	

【コメント】

子どもたちは、成長や季節に合った衣服を着用している。また、担当職員と一緒に買物に出かけ、子どもたちが自分で選び、自分らしい服装ができるようにしている。露出が高い服は、フロアのルールで少し制限しているところもある。洗濯はフロアごとに職員が行い、子どもたちがいつも清潔な服装でいられるようにしている。高校生からは自活に向けて、自分の衣類を洗濯できるように促している。低年齢の子どもの衣類は、職員が整理し、子どもの発達段階に応じて、たたむ、タンスに入れるなど、自分で整理整頓ができるよう支援している。子どもの入学式や卒業式の衣服は、保護者が揃えることもあるが、園でも整えている。七五三には着付けのボランティアが来園し、子どもたちをお祝いしている。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○

<input type="checkbox"/>	小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	発達やこどもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

それぞれのユニットは6人定員で、こどもたちに家庭的な養育ができるようにしている。平成27～28年に居住棟を改築し、年齢にかかわらず個室を整備している。建物は明るく、フロアは広く清潔に整えている。洗面所には、こどもたち一人ひとりのタオル掛けを用意している。天気の良い日には職員が布団を干すようにしている。こどもたちの部屋には、キャラクターのぬいぐるみや写真など、自分の好きな物を置き、それぞれ居心地の良い空間を作っている。部屋の掃除や整理整頓は、基本的にはこどもたちが自分で行うようにしている。片付けが苦手なこどもには、担当職員が入り、一緒に行うようにしている。随時、施設管理委員会のメンバーが、園全体の危険箇所のチェックを行い、部屋の引き出しのストッパーの修理や棚の作り替えなどに対応している。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりのこどもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
<input type="checkbox"/>	こどもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的にこどもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	健康上特別な配慮を要するこどもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	受診や服薬が必要な場合、こどもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要なこどもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

秋には、こどもたち全員が、嘱託医による健康診断を受けている。日々の生活では、フロアに入る職員がこども一人ひとりの顔色や食事の状況など、健康状態を観察している。発熱などがあれば記録に残し、フロアチーフに対応を相談している。また、職員の判断で市販薬を服用させることはせず、受診して医療機関の判断に沿った対応を行っている。内服薬は、飲み忘れ・飲ませ忘れがないよう、服薬後空いた袋を確認するようにしている。朝の連絡会で誤薬防止について話し、職員間で周知している。発育の遅れがあると指摘をされたこどもについては、主治医の指示のもと、定期的に発育のチェックを行い、療育相談にもつなげている。

(6) 性に関する教育

①	A16 こどもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
<input type="checkbox"/>	他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	性をタブー視せず、こどもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢・発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員やこどもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

こどもの年齢、発達段階に合わせて小学生、中学生それぞれに「生・性教育」を実施している。子どもの権利擁護委員会のスタッフが担当し、児童相談所の保健師や保健所のスタッフから話を聞いている。児童相談所の保健師など、専門職からの教育・支援の助言を受け、こどもたちがより安心して話を聞くことができる「園職員による直接支援」につなげている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 こどもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
---	--	---

	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲のこどもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、こどもの行動上の問題の軽減に寄与している。またこどもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもに不適応行動が見られた場合には、その場にいる職員が対応し、子どもから話を聞き、フロア会議で職員間で内容を共有して対応している。必要に応じて、児童相談所の職員にも関わってもらっている。職員は丁寧に子どもに寄り添った支援を提供するように努め、現在、子どもたちは落ち着いて生活を送っている。問題を抱えた子どもから、病院受診の希望があった場合には、児童相談所に相談するとともに、児童相談所の児童精神科医による月2回の巡回相談を活用し、医療機関につなげるべきか判断を仰いでいる。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

日頃から生活の中で、子ども同士の関係性を意識して接するように努め、職員間で情報共有して支援を行っている。問題があった場合、職員が外遊びに付き添ったり、再発防止のために、フロアチーフが中心となって、子どもたちから聞き取りを行い、状況や事実の確認など、役割分担をして支援している。通学先で課題がある子どもは、学校に出向き、児童相談所職員、担任の先生が参加する学校とのカンファレンスを実施し、支援について意見交換を行うようにしている。必要に応じて、園の職員が授業に付き添う対応をしたこともある。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

心理療法担当職員として、元県児童相談所の児童心理司や児童精神科の心理担当の経験を持つ職員を非常勤で雇用し配置している。今年度、別館の心理フロアに、箱庭などの心理療法を実施するスペースを整備して、いつでも子どもたちの見立てや相談ができるようにしている。必要に応じて、心理療法担当職員が子どもと面接を行っている。また、職員も日頃の支援の相談やアドバイスを受けられる体制を整えている。児童相談所の児童心理司と、定期的に面接をしている子どももいる。面接の状況など、担当職員が記録に残し、職員間で情報を共有して支援に取り組んでいる。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

日頃より、子どもたちの学校の担任教諭と電話でやり取りし、学校での様子など、情報交換を行って連携している。学習習慣のない子どもも多く、学習支援事業として、教員OBの方々の協力を得て、子どもと1対1で勉強をする機会を作り、基礎学力の回復に努めている。学習支援事業は、成績を上げるだけでなく、健全な大人との出会いの場にもなっている。現在、中学3年生1名が塾に通っている。発育の遅い子どもや障がいを持つ子どもには、その子どもに合った支援を行っている。以前、発達支援事業所への通所を取り入れた事例があり、現在も放課後デイサービスを利用している。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童自立生活援助事業、社会的養護自立支援拠点事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、積極的に措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="radio"/>

【コメント】

進路については、学校での進路指導による情報提供を受け、複数の選択肢の中から、最終的には自分で決めることができるよう支援している。学校や児童相談所と情報交換を行い、連携を取りながら、本人が主体的に決められるよう促している。進路の見通しが立ったところで、身元保証人確保対策事業や奨学金受給などの経済援助について、本人に伝えて対応している。園として在籍している子どもは「要保護児童」と捉え、高校中退であっても18歳の3月31日までは、必要があれば支援するようにしている。高校卒業後も、必要に応じて、半年ほどの措置延長を検討している。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

学校と情報交換を繰り返し行い、卒園後の就労につながるようにしている。児童相談所を交えて、学校カンファレンスも実施し、自立支援に取り組んでいる。基本的には学校での就労の取り組みを中心とした支援を行っており、園による積極的な実習先や体験先の開拓は行っていない。高校生以上には社会経験の拡大に役立つため、通学先の規則を守りながら、アルバイトを勧めている。アルバイト先は自分で探し、現在、2名がファミリーレストランなどで働いている。無断欠勤などの連絡や対応を行い、アルバイト先との連携も取っている。障がいがあり、手帳を所持するこどもがいるが、学校から就労先の紹介があり、老人ホームでアルバイトとして働いている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所がこどもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れこどもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後のこどもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

2名の家庭支援専門相談員を置いている。家庭支援専門相談員を中心に、児童相談所と情報交換を重ねて支援している。家族と信頼関係が築けるよう、児童相談所と連携を取り、家族と面接できる機会を作るよう努めている。こどもの家庭への外泊後には、担当職員をはじめ全体で、こどもの様子を気に掛けるようにしている。子どもの言葉などで気になることがあった際には、児童相談所と情報を共有し、今後の支援の検討を行っている。また、職員間でも情報を共有し、適切な支援ができるようにしている。親子間交流のある場合は、積極的に通学先の行事予定などを知らせ、家族の参加を促している。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

児童相談所と情報交換を行い、児童相談所作成の交流スケジュールのもと、面会を重ねたり、外出につなげるなど、親子関係再構築の支援に取り組んでいる。児童相談所と連携し、支援方針を慎重に検討している。また、年度初めの全職員が参加する職員会議で、担当職員が在籍するそれぞれのこどもの自立支援計画を説明し、園全体で共有できるようにしている。今年度、親子支援室を利用して、親子で宿泊して、自宅への外泊訓練を実施しており、ここ2～3年では4件の家庭復帰がみられている。日頃から、児童相談所の児童福祉司とやり取りし、支援を継続する中で、担当福祉司の不在が続く場合は、用件が先送りになることのないよう留意して関わっている。